2021 年 2 月 2 日

ケッペル（KPLM）

石油掘削リグ事業から撤退を発表。クリーンエネルギーと洋上データセンター等へ事業の選択と集中で ROE 引上げ

シンガポール | インフラ建設 | 業績フォロー

BLOOMBERG KEP:SP | REUTERS KPLM.SI

- 2020/12通期は、売上高が前期比13.3%減、当期利益が▲5.06億SGDへ赤字転落。減損損失を除く調整後当期利益は同46.1%減だった。
- 2H（7-12 月）の前半期比は、6.6%増収、少数株主分含む純利益が黒字転換と業績改善を示した。
- 石油掘削リグ事業から撤退を発表。クリーンエネルギーおよび洋上データセンターなどへ事業選択と集中によりROE引上げを目指す。

What is the news？

1/28発表の2020/12通期は、売上高が前期比13.3%減の65.74億SGD、営業利益が同99%減の800万SGD、当期利益が前期の7.07億SGDから▲5.06億SGDへ赤字転落。また、石油掘削リグの市況悪化に伴い、子会社のケッペル・オフショア＆マリンの資産や売掛金、出資先株式に係る損失引当金などに関連して計上した9.52億SGDの減損損失を除いた調整後当期利益が同46.1%減の4.46億SGDとなり、1株当たり年間配当金は0.10SGD（前期0.20SGD）を確保。2H（7-12月)の前半期比では、6.6%増収の3.39億SGD、少数株主分含む純利益が1Hの▲5.36億SGDから2,803万SGDへ黒字転換と改善を示した。

事業セグメント別の業績は以下の通り。①エネルギー＆環境事業は、売上高が前期比20.6%減の39.54億SGD、当期利益が前期の▲1.01億SGDから▲11.80億SGDへ赤字幅拡大。ただし、オフショア・海洋部門を除くインフラストラクチャー・その他部門は、売上高が同13.8%減の23.69億SGD、純利益が前期の▲3,830万SGDから9,417万SGDへ黒字転換。廃棄物エネルギー利用および地域冷却に係る21億SGDの契約をシンガポールとタイ、インドに跨り獲得した。②都市開発事業は、売上高が同4.5%減の12.75億SGD、純利益が同9.4%減の4.37億SGD。③移動体通信事業のM1社およびデータセンター運営に関連するコネクティビティ（接続）事業は、売上高が同8.1%増の12.20億SGD、純利益が前期のM1統合に伴う再評価益計上の反動減により同90.2%減の1,324万SGD。 ④アセット・マネジメント事業は、売上高が同7.0%減の1.34億SGD、純利益が同30.4%増の2.79億SGD。「ケッペル・インフラストラクチャー・トラスト」への出資分に係る評価替え、およびケッペル・キャピタル社の業績が寄与した。

How do we view this？

同社は石油掘削リグ事業から撤退すると発表。ローCEOは「脱石油のエネルギー改革は急激に加速しており、石油生産に対する逆風は非常に強い」と述べ、今後は洋上風力発電や液化天然ガス(LNG)生産のプラットフォーム、洋上データセンターなどを強化するとした。また、経営再建にむけ、倉庫、トラックなどの物流事業も売却し、投資を環境事業など重点分野に回すとするなど、事業の選択と集中により自己資本利益率(ROE)を19年の6.3%から2030年までに15%に引き上げる目標を示した。

2021/12通期会社計画は未公表だが、市場予想は売上高が前期比9.4%増の71.93億SGD、当期利益が前期の▲5.05億SGDから7.19億SGDへ黒字転換。

PhillipCapital
Your Partner In Finance

フィリップ証券株式会社

配当予想（SGD）	**0.20**	（予想はBloomberg）
終値（SGD）	**4.90**	2021/2/1

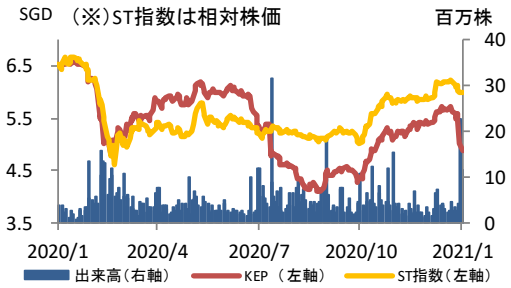
会社概要

1968年に英国の造船会社、スワン・ハンター社によって設立。20ヵ国以上で事業を展開するコングロマリットで、シンガポール政府所有の投資会社テマセク・ホールディングスが筆頭株主である。 脱石油のエネルギー改革の下、主力ビジネスだった海上石油掘削リグ事業から撤退し、洋上風力発電や液化天然ガス(LNG)生産のプラットフォーム、洋上データセンターなどへの事業への選択と集中を進めている。

同社は以下の4事業セグメントから構成される。①オフショア・海洋部門とインフラ・その他部門を含む「エネルギー＆環境事業」は、傘下に、海上石油掘削設備の設計・建設・修理などを行うケッペル・オフショア＆マリン、およびエネルギーインフラの運営や関連するソリューションを提供するケッペル・インフラストラクチャーを擁する。②不動産に係る「都市開発事業」は、ケッペル・ランドがアジア地域を中心に住宅開発や都市設計、商業用不動産開発など行う。③移動体通信事業およびデータセンター運営に関連する「コネクティビティ（接続）事業」では、2019年に買収した通信大手のM1のほか、高可用性データセンター施設の開発、管理を行うケッペル・テレコミュニケーション＆トランスポーテ―ションを擁する。④「アセット・マネジメント事業」では、子会社のケッペル・キャピタルがデータセンターなどのREITの組成などを行う。

企業データ（2021/2/2）

ベータ値	1.00
時価総額（百万SGD）	8,906
企業価値=EV（百万SGD）	19,322
3ヵ月平均売買代金（百万SGD）	23.8



（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

主要株主（2021/2）	（%）
1.テマセク・ホールディングス	21.03
2.ブラックロック	4.67
3.VANGARD GROUP	2.43

（出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

アナリスト
笹木 和弘
kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980

PhillipCapital
Your Partner In Finance

業績推移

※参考レート 1SGD=78.71円

事業年度	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12F	2022/12F
売上高（百万SGD）	5,962	7,576	6,574	7,193	7,412
当期利益（百万SGD）	948	707	-505	719	862
EPS（SGD）	0.52	0.39	-0.28	0.39	0.47
PER（倍）	9.42	12.56	-	12.56	10.36
BPS（SGD）	6.22	6.17	5.89	6.14	6.42
PBR（倍）	0.79	0.79	0.83	0.80	0.76
配当（SGD）	0.25	0.20	0.10	0.20	0.24
配当利回り（%）	5.10	4.08	2.04	4.08	4.90

（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社　〒103-0026　東京都中央区日本橋兜町 4 番 2 号
TEL:03-3666-2101　　URL：　http://www.phillip.co.jp/
本レポートの作成者：公益社団法人　日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト　笹木和弘
リサーチ部　李　一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則　平 14.1.25」に基づく告知事項＞
・　本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。